

広島市 で活躍しています！

湯来温泉街のシンボル「露天風呂」を復活 《佐藤 亮太さん》

湯来町のNPO法人湯来観光地域づくり公社で湯来交流体験センターを拠点に、シャワークライミングなどのアドベンチャーツーリズム、農業体験、特産品の販売など、さまざまな活動を行っています。

また、かつて「広島奥座敷」として栄えた湯来温泉街のシンボル、「湯元」露天風呂の復活にも取り組み、地域が持つ資源を最大限に生かし、地域が盛り上がるよう活動しています。

【主な取組】

- 湯来交流体験センターの運営
- 特産品の開発・販売
- アドベンチャーツーリズムや体験プログラムの企画・運営
- 湯来温泉 湯元貸切露天風呂「誠の桧湯」の運営 など
- アドベンチャーツーリズムのガイド



Point !

湯来温泉街の活気を取り戻し、次世代に名を継承したいという思いから、「湯来温泉 湯元露天風呂 復活プロジェクト」を立ち上げ、地域の方と協力しながら進めてきました。「湯元」露天風呂を通じて、多くの方に湯来町の良質な湯と自然の豊かさを知っていただきたいです。

呉市 で活躍しています！

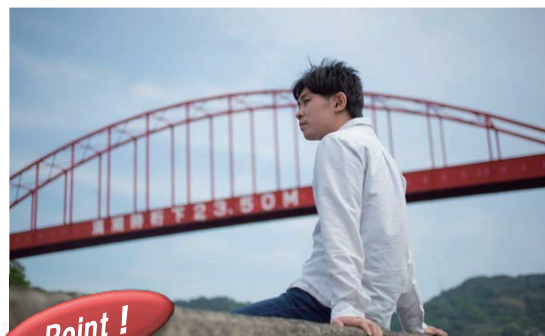
祖先の想いを受け継ぎ、未来へ地域を繋ぐ 《数田 祐一さん》

音戸町にある明治15(1882)年創業の呉服屋に生まれ、5代目として家業を継ぎました。受け継いだ古商屋をカフェ&ギャラリー「天仁庵」に、向かいの古民家を手作りケーキと洋菓子の「天仁庵 Diminish」にリノベーションし、沢山の方に訪れて頂いています。

また、地縁を活かして、音戸に住みたいと思ってくれる人に、空き家などの活動拠点や住む場所の紹介、地域の人とのつながりづくりのサポートなども行っています。

【主な取組】

- 「天仁庵」「天仁庵Diminish」の運営
- 地域内外の方の交流イベントやワークショップ
- 地域の特産品開発



Point !

「天仁庵(てんじんあん)」は、カフェやギャラリーのほか、ワークショップやイベントなど地域内外の人が集まる場にもなっています。音戸の未来を創っていくために、「音戸の瀬戸」を拠点に様々な交流が生まれる場所になってくれればと思っています。

呉市 で活躍しています！

安芸灘とびしま海道 × アウトドアコンテンツ 《高島 俊思さん》

地域おこし協力隊として下蒲刈島に移住し、「安芸灘とびしま海道」の山や海の美景や地域独特ののどかさに「アウトドアコンテンツ」を掛け合わせた様々な取組を行っています。とびしま海道初のレンタサイクル事業の立ち上げから運営に携わり、「とびしまウルトラマラニック」という島々を巡る100kmマラソンを開催するなど、とびしま海道の観光振興につながる活動を行っています。

【主な取組】

- ・ コテージ梶ヶ浜におけるレンタサイクル事業や魅力化
- ・ 外国人サイクリストの誘致
- ・ とびしま海道でのマラソンイベントの運営



Point !

「とびしまウルトラマラニック」は、平成30年7月豪雨から半年後の開催でしたが、今だからこそやるべきという想いのなか、地域の方のボランティアなど多くの協力を得て開催しました。とびしま海道を象徴する定期イベントとなるよう、今後も継続して開催していきたいと思います。

県内全域 で活躍しています！

ソーシャルライドでつなぐ里山ネットワーク 《堀 啓二さん》

自転車だから出会える景色。そんな一瞬の奇跡と人との出会いを求めて、自転車で里山里海をくまなく巡っています。地元の方との何気ない会話やハッとする景色が目飛び込むあの瞬間が好きで、数々の隠れた名所を紹介するルートづくりも行っています。迷い道を尋ねることも、立派な「地域とのコミュニケーション」につながっています。自転車を通して、里山でたくさんの新しい出会いの輪を広げていきたいと思っています。

【主な取組】

- ・ 一般社団法人RIDEを通じたサイクリングの普及・振興と地域活性化
- ・ 広島県サイクリング協会にて自転車に関する環境の調査研究 など



Point !

平成29(2017)年に開催された「さとやま未来博」では、さとやまソーシャルライドを監修し、参加された方々と里山の意外な穴場をつなぐお手伝いをさせていただきました。木々が芽吹く春の里山や野焼きの煙が目染める秋の里山を、心弾みながら駆け抜けた思い出は貴重な財産です。

庄原市 で活躍しています！

魅力的な建物を活かして地域を活性化 《榎原 節男さん》

東城町で、一級建築士として地元木材を活用した家づくりの傍ら、平成3(1991)年に、まちづくりグループ東新会を立ち上げました。

東新会では、町並みの景観の維持と保存を目的に、様々な活動を行っています。その一つに、町内の空き施設の活用として、地域住民やサポーターのみなさんと、「ヤマモトロックマシン自治寮活用プロジェクト」に取り組んでいます。

【主な取組】

- ・「ヤマモトロックマシン旧自治寮」の活用に向けた取組
- ・地域資源を活用したもののづくりワークショップ
- ・多様性を受け入れるコミュニティづくり



昭和初期に建てられた「ヤマモトロックマシン旧自治寮」の保存のため、平成30(2018)年にクラウドファンディングを活用して資金を集め修繕を行いました。修繕体験会を実施したり、地域内外の方の交流イベントを実施するなど、多様な活用を図っています。

江田島市 で活躍しています！

江田島で歴史を刻む洋館「海友舎」を交流拠点に 《南川 智子さん》

神戸で建築デザインの勉強をした後、平成24(2012)年に江田島で「海友舎」と出会い、仲間とともに建物の管理運営を担う「ぐるぐる海友舎プロジェクト」を発足しました。海友舎は、明治40(1907)年に、海軍下士卒集会所として建てられ、戦後は会社事務所として使われました。現在、建物を活用した地域内外の交流拠点づくりに取り組んでいます。

【主な取組】

- ・「ぐるぐる海友舎プロジェクト」の運営
〔 歴史的建造物の維持管理、建築歴史調査
イベントの企画・開催、交流促進 など 〕



「ぐるぐる、こつこつ、わくわく」を合言葉に、建物や歴史、島の暮らしなど、さまざまな興味を持つ仲間とともに、毎月1回、海友舎の清掃をしています。歴史を刻む洋館を活用して、地域内外から集う仲間との緩やかなつながりづくりを進めています。

大崎上島町 で活躍しています！

子どもたちの未来を拓き、島の未来を拓く 《取釜 宏行さん》

県立大崎海星高校の高校魅力化プロジェクトのコーディネーターや私塾を営みながら、教育という観点から地域の担い手育成に取り組んでいます。島の自然や文化、地域の人など「島の資源」を生かした教育を実践することで、子どもたちの「生き抜く力」を育み、将来は島を担う人材になってほしいと思っています。

【主な取組】

- ・ 広島県立大崎海星高校の魅力化（大崎上島学、公営塾「神峰学舎」など）
- ・ 私塾の運営（地域連携型キャリア教育「島キャリア」の実践 など）



Point !

私塾では、「島キャリア」と名付けた独自の地域連携型キャリア教育を行っています。中学生を中心に、島の自然や文化を学び、時には海外への研修旅行などを通じて、子どもたちに挑戦し続ける大切さを学んでもらっています。

神石高原町 で活躍しています！

油木高校魅力化＋プロジェクト 《青木 一麦さん》

「油木高校魅力化＋プロジェクト」の推進を地域おこし協力隊として行っています。町内唯一の県立高校と地域をつなぐコーディネーターとして、地域資源を生かした教育活動に取り組んでいます。

田舎だからこそ、地域の人との距離が近い。小規模校だからこそ、生徒との距離が近い。この贅沢さを噛み締める毎日です。

【主な取組】

- ・ 授業「総合的な探究の時間」
- ・ 放課後の探究学習「神ゼミ」
- ・ 高校生への推薦指導
- ・ カリキュラム改革のサポート



Point !

「神ゼミ」では“動画クラブ”の活動を行っています。映像制作を通じた学びの実践です。高校生と地域のクリエイターを繋ぎ、ミュージックビデオを制作。YouTubeで約3万回再生されています。

地域 とつながっています！

関係人口から広がる「つながいの輪」と「地域の可能性」

広島県では平成27(2015)年から「ひろしま里山ウェーブ」を通じて関係人口創出に取り組んでいます。この事業では、地域貢献意欲の高い首都圏の人材を呼び込み、《人》のつながりを軸に、地域の課題解決に向けたプランの実践や地域とのパートナーシップづくりを支援しています。

事業を通じて様々な人のつながりが生まれ、首都圏と中山間地域を行き来しながら地域で活躍する人、首都圏で広島の中山間地域に関わるイベントをしてくれる人、そして、大好きな広島の里山に移住した人など、多様な形で広島と関わる人が増えています。

※「関係人口」とは、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のことを指します。
(出典：総務省 関係人口ポータルサイト)

【参加者の声】

- ・「知る」「学ぶ」「体験する」「つながる」が盛りだくさんの、濃い経験をすることができました。
- ・訪問した地域が、自分にとって、親戚が住んでいるふるさとのような心温まる「まち」になりました。
- ・地域の方との多くのご縁をいただいたので、恩返しとしてこれからも継続して関わってまいります。

【地域の声】

- ・地域のために何かしたいと思ってくれる人がいるということにとっても感銘を受けました。
- ・地域外から関わってくれる人が増えるにつれ、地域の可能性を感じられるようになりました。
- ・参加者と連携し、取組が少しずつ形になることで地域が盛り上がりつつあることを実感しています。



地域での現地実習



地域での現地実習



最終プラン発表会



最終プラン発表会

府中市 に移住しました！

人形作りに想いを込め、地域の魅力・文化を発信 《有光 梨紗さん》

東京で精神保健福祉士として働いていましたが、故郷の広島県にも心の病を抱えた方やその家族の居場所を作りたいという思いから、上下町にUターンしました。その想いをまず形にしたのが、「みにみつこちゃん人形」です。現在、制作と販売の両方を行っています。また、上下の米粉を使った焼き菓子などの特産品開発、お惣菜調理や家政婦など地域に根差した幅広い取組を行っています。

【主な取組】

- ・ 「みにみつこちゃん人形」の制作
- ・ 上下の米粉を使った焼き菓子の製造
- ・ お惣菜の調理・提供
- ・ 家政婦として家のお困りごとの解決
- ・ フリーペーパー「ぴろしま通信」の発行



Point !

「みにみつこちゃん人形」は、郷土人形である「上下人形」の存在をきっかけに、日本と世界の郷土人形から着想を得てオリジナルで開発したものです。人形が、手に取った人の心に寄り添い、ほっとできる存在になればと、一つ一つ手作業で心を込めて作っています。

安芸高田市 に移住しました！

農ある暮らしの実践と発信 《沖田 政幸さん》

広島市出身。岡山県美作市で棚田再生プロジェクトに携わった後に、母の実家がある縁で、平成29(2017)年に地域おこし協力隊として美土里町に孫ターンしました。

協力隊の任期中に、民泊スタイルのゲストハウス「アオノイエ」を開業し、現在は、観光協会職員・農業・地域の特産品製造団体代表など複業しながら、家族中心の「ほしい暮らし」を実践中です。

【主な取組】

- ・ ゲストハウス「アオノイエ」の運営
- ・ 観光情報の発信・PR
- ・ 特産品の開発・製造・販売



Point !

築130年の実家の古民家をDIYリノベーションして整備した「アオノイエ」は、“青”という所在地の集落名に、「ノイエ」というドイツ語の“新しい”を掛け合わせた言葉になります。お客様には、ここでしかできない新たな体験を提供しています。

ひと。

ずっと先の未来につなごう。

安芸高田市 に移住しました！

関わる人たちを笑顔にする観光サービスを 《中溝 国久さん》

福岡県出身。宗像市でホテルマンとしてキャリアを積んだ後、平成27(2015)年に地域おこし協力隊として安芸高田市にターン。観光情報の発信やイベント企画に3年間携わりました。

現在は、同市観光協会の職員として、毛利元就が生涯住み続けた居城「郡山城」の史跡を巡るガイドや市の様々な観光プロモーションを手掛けています。

【主な取組】

- ・ 観光情報の発信
- ・ イベント企画・運営
- ・ 郡山城跡の観光ガイド など



Point !

観光協会では、お客様に安芸高田市の魅力をより深く、より楽しく伝えるため、「どうやったら面白くなるか、どうやったらお客様を笑顔に出来るか」を常に考え、顧客目線の観光サービスの提供を第一に、日々取り組んでいます。

江田島市 に移住しました！

地域をつなぎ、笑顔と幸せを届けるパン職人 《西村 京子さん》

山口県出身。広島市内の民間企業で働いた後、自然豊かな島でパン屋をしたいという想いが募り、平成28(2016)年に江田島市に移住しました。

ここでは、地域おこし協力隊として、江田島のオリーブを内外に発信するお手伝いをし、卒業後に念願のパン屋「しまのぱん souda!」を開業しました。お世話になった島の皆さんへの恩返しとして、パンを通じて笑顔と幸せを届けたいと思っています。

【主な取組】

- ・ しまのぱん souda! の運営
(パンの製造・販売、カフェの運営)
- ・ オリーブやパンに関するワークショップの開催
(オリーブ冠作りやパン作り教室 など)



Point !

「しまのぱん souda!」は、恵み多き自然豊かな江田島の「空」、「海」、「大地」から名付けました。彩りには地域の食材を、薪には伐採木を使うことで、島の農家と人々をつなぎ、資源を循環できればと思っています。そして、誰かが笑顔になれるパンを届けたいと思っています。

安芸太田町 に移住しました！

生産者に寄り添った地域産品の流通・販売促進 《志賀 俊介さん》

広島市出身。スポーツ用品関連企業で全国を飛び回っていましたが、平成28(2016)年に子どもが生まれたことを機に、都市部に近く、田舎暮らしも満喫できる安芸太田町に移住しました。

現在は「地域商社あきおおた」の職員として、道の駅「来夢とごうち」の売店や「太田川産直市」の運営に携わり、地域産品の流通・販売促進、商品開発などを通じた生産者支援に取り組んでいます。

【主な取組】

- ・ 道の駅「来夢とごうち」の売店運営
- ・ 「太田川産直市」の管理・運営
- ・ 地域産品の流通・販売促進、商品開発



Point !

地域には高齢の農家さんが多く、生産・出荷体制も様々なため、一人一人の農家さんにしっかりと寄り添うことを大切にしています。そうすることで初めて見えてくる課題や可能性に対して、一緒に向き合い、サポートしていくことが充実した田舎ライフにもつながっています。

大崎上島町 に移住しました！

関係人口からの移住という選択 《反岡 和宏さん》

首都圏で働いていたところ、平成27(2015)年に広島県の関係人口創出事業「ひろしま里山ウェーブ」に参加し、大崎上島町に訪れたことがきっかけで、広島市にUターン。その後、大崎上島町に足繁く通い、ついに平成30(2018)年に大崎上島町に移住しました。現在は、同町の観光協会事務局長を務めながら、フォトグラファーとしても活動しています。

【主な取組】

- ・ 大崎上島町観光協会の運営
- ・ フォトグラファーとして写真による島の魅力発信・PR



Point !

白水港からほど近い場所に観光協会が運営する観光案内所があります。私を含めてスタッフ全員移住者ということもあり、島民と移住者を繋ぐ場所にもなっています。また、案内所内にはカフェも併設されており、島を訪れた人と地域の方々の交流の場にもなっています。

ひと。

ずっと先の未来につなごう。

呉市 に移住しました！

島暮らし体験をきっかけに移住の後押しを 《角幡 彩さん》

北海道出身。札幌でシェアハウスの運営を経験後上京し、平成29(2017)年に広島県の「ひろしま里山ウェーブ」に参加しました。訪問先の下蒲刈島に魅力を感じ、翌年地域おこし協力隊として1ターン。令和2(2020)年に移住体験シェアハウス「Be a Family」をオープンし、島暮らしならではの体験を提供しています。また、イベントを通じた地域活性化にも取り組んでおり、地域内交流の推進や地域の情報発信をしています。

【主な取組】

- ・ 移住体験シェアハウスの運営
- ・ 地域おこし協力隊としての地域のPRや地域行事、コミュニティ活動等の支援活動



Point !

島の方のあたたかさに触れる中で、まるで家族の一員になったような気持ちになり、シェアハウスは「Be a Family」と名付けました。思いやりとおもてなしの心に溢れたこの島のファンを増やしなが、入居者の移住の後押しをしたいと考えています。

呉市 に移住しました！

地域の「特産」と「想い」を受け継ぐ 《狩野 望さん》

北海道出身。妻の「田舎で農業をやりたい」という夢を叶えるため、平成29(2017)年に倉橋町に地域おこし協力隊として移住しました。

新たな観光名所として「長串みはらしの森のトレッキングコース」を整備したり、平成30年7月豪雨災害の時には災害ボランティアセンター「くらはしサテライト」の設立に携わりました。現在は家族で特産の「石地みかん」の栽培・販売を行っています。

【主な取組】

- ・ ブランドみかん「こだわりいしじ」を始めとした柑橘栽培・販売
- ・ 「倉橋交流拠点構想推進協議会」を通じた倉橋地域の賑わいづくり
- ・ 「くらはし観光ボランティアガイドの会」を通じた倉橋地域のガイド など



Point !

「石地みかん」の柑橘畑は、地域の柑橘農家から受け継いだものです。先代の農家さんの想いが詰まった柑橘畑を受け継ぐ責任を日々感じながら、自分もこの柑橘畑を次世代につないでいこうと思っています。

呉市 に移住しました！

心地よい暮らしの始め方を学べる学校づくり 《中村 功芳さん》

まちづくりの《ストーリーメーカー》として全国で仕事をしていた時に、広島県が主催する「里山ウェーブ」という事業にメンターとして参画することになり、「音戸」のまちと出会って、心地よい暮らしを実践する人たちとつながり、島の暮らしに惹かれて移住しました。

ここで誰もが英気を養いつつ、将来に向けて新しい暮らしを始めていくことができる、そんなユニバーサルな《学び舎》を創るプロジェクトを進めています。

【主な取組】

- ・ ゲストハウス開業合宿
- ・ 瀬戸内の暮らしオンライン体験会
- ・ 瀬戸内の島の移住交流拠点づくり



Point !

瀬戸内の心地よい暮らしを体験してもらうため、音戸で2軒の空き家を購入。パリのモンマルトルの丘にたくさんの芸術家が集まったように、この場所を全国から芸術家やチャレンジャーが集う最高の居場所にしたいと思います。

三原市 に移住しました！

「田舎×IT」で人を呼び込み地域を元気に！ 《篠崎 初光さん》

静岡県出身。大阪府で民間企業に勤めた後、久井町へターンし、古民家を整備してIT技術者が集う「ギークハウス広島」を開きました。

「田舎×IT」をキーワードに、田舎暮らしに憧れる都会のクリエイターが田舎生活を始めるお手伝いをしています。また、地域のシニアの方が、日常生活に役立つインターネットの使い方を身に付けるサポートも行っています。

【主な取組】

- ・ 「ギークハウス広島」の管理・運営
- ・ シニア世代向けのITサポート「パソコンサルあまてる」の運営
- ・ 地域や田舎生活の情報発信



Point !

プログラミング等のIT技術に長けた「ギーク」たちが集うシェアハウスを通して、起業を目指す若者のUターンを後押しし、その技術や知恵を生かしながら、地域を元気にしていけたらと思っています。

福山市 に移住しました！

“地域とのつながり”が移住のきっかけ 《中尾 圭さん》

千葉県出身。大阪のまちづくり会社に勤めている時に「瀬戸内しまのわ2014」に携わり、地域とのつながりができたことがきっかけで、平成28(2016)年に内海町に移住しました。「港の編集室」を立ち上げ、地域の魅力を集めた島のガイドブック「内海手帖」の制作やSNSによる情報発信「うつみ海苔の学校」などを行っています。

また、「Utsumi Fishermans Fest」という漁師と地域外の人をつなぐイベントにも携わっています。

【主な取組】

- ・「港の編集室」の運営
(グラフィックデザイン、写真撮影、動画制作、SNS発信 など)
- ・移住定住相談



Point !

「港の編集室」は、デザインや編集などのスキルを活用して、地域の人の想いやアイデアを形にする企画・編集チームです。人や物が行き来する港のように、出会った人や物をつなぎ、住んでいる人が楽しく幸せに暮らしていくお手伝いをしたいと思っています。

廿日市市 に移住しました！

特産品開発で地域を元気に！ 《則武 宏承さん》

兵庫県出身。平成27(2015)年に自分のスキルを活かそうと、吉和にあるレジャー観光施設「魅惑の里」への転職を機に移住しました。

吉和地域を元気にしていこうと「吉和げんき村」の一員となり、お年寄りから若者まで、世代を超えてみんなが楽しく住み続けられる地域づくりに取り組んでいます。主な活動として、地域イベントの開催やルバーブを使って開発したソースやジャムの販売を行っています。

【主な取組】

- ・吉和ルバーブの商品開発
- ・特産品「山葵」の6次産業化
- ・地域イベントの企画、お手伝い



Point !

吉和では「ルバーブ」という野菜を特産品として生産しています。ルバーブを育てる吉和のおばあちゃんたちの愛情を多くの人に届けるため、ソースやジャムなどの開発・販売を手掛け、少しずつ「吉和＝ルバーブ」の認知が広がってきています。

安芸高田市に通っています！

菜園＆山里文庫に囲まれた2軒目の暮らし 《畝崎 辰登さん》

里山と街なかの2拠点を行き来しながら、自分のペースで耕作放棄地を起耕し、安心して食べることができる100種類の野菜や果物づくりを進めています。コツコツと3年。雑木林と寄り添う里山暮らしを通じて菜園と雑木林との距離が少しずつ近づいてきました。風と土と光と山霧の恵みに季節の移ろいを感じながら、ゆっくりとした生活のリズムが体に馴染んでいく2軒目のある暮らし。どうしても手元に置いておきたい本だけを残した《山里文庫》が、過去と未来をつなぐ拠点として機能しています。

【主な取組】

- ・ 畝崎ファームを軸とした2拠点生活の実践
- ・ 菜園＆山里文庫を通じた交流の場の提供



Point !

菜園のコンセプトは《キッチンガーデン》。私がスコップ一本で起耕したなだらかな傾斜地には、少量・多品種の野菜が放任主義で育ち、周辺には果樹、キノコ、山菜。ここに虫や鳥も。この菜園は里山の生物の命も支えています。

呉市に通っています！

中山間地域と首都圏での2拠点生活を実現 《此松 武彦さん》

東京都内でシェアハウスを運営する傍ら、瀬戸内を望む音戸に二つ目の拠点となる古民家の宿を開業し、東京と音戸をつなぐ2拠点ライフを始めています。きっかけは、平成30(2018)年に広島県が主催する「ひろしま里山ウェーブ」に参加し、音戸を訪れたことでした。狭い海峡を行き交う、日本一距離の短い渡船や暮らしが垣間見える路地裏、地元の人たちの気さくな人柄や遅しさに触れ、古民家購入を決意しました。訪れた方が、この何気ない日常を体験できる、入り口のような「場」を提供したいと思っています。

【主な取組】

- ・ 古民家宿「音戸イロリバ HOUSE」の運営
- ・ 音戸や近隣のローカル体験の開発 など



Point !

囲炉裏を囲むように、音戸を訪れた人たちの心が向き合える場所にしたいという想いを込め、宿の名前は「音戸イロリバ HOUSE」にしました。泊まるだけでなく、ローカル体験も一緒に楽しむことができる空間にしていきたいと思っています。

夢をカタチにできる仕事づくり

目指す姿

- ◆ 中山間地域に暮らしながら、働き続けられる環境が維持され、多様な企業や人材が、地域ならではの資源や基盤を生かして、新たな事業にチャレンジしています。
- ◆ とりわけ、中山間地域の基幹産業である農林水産業では、デジタル技術を導入しながら生産性を向上させ、地域資源や雇用労働力を有効に活用しつつ規模拡大に取り組むなど、持続可能な企業経営にチャレンジする担い手が増加しています。
- ◆ 観光面では、サイクリング、カヤックなどの体験や地域で育まれてきた伝統芸能の鑑賞、情緒あふれる古民家での宿泊体験など、中山間地域の資源を生かした観光サービスや観光商品等が充実し、国内外からの多くの観光客が周遊しています。

これまでの主な取組成果

元気な 農林水産業	● 県産農産物の生産拡大	✓ キャベツ生産額の倍増(H26:2億円 ⇒ H30: 4億円) ✓ レモン生産額の倍増 (H22:9億円 ⇒ H29:17億円)
	● 経営力の高い担い手の育成	✓ 農産物生産額のうち経営力の高い担い手のシェアが増加 (H27:38.7% ⇒ H30:40.5%)
	● 県産材の供給拡大	✓ 住宅等への県産材供給量が2倍以上増加 (H27:1.9万m ³ ⇒ H30:4.5万m ³)
	● 全国シェア6割を占める 広島かきの生産増加	✓ 広島かきの生産額増加 (H22:154億円 ⇒ H30:169億円)
事業展開・ 創業支援	● サテライトオフィスの誘致促進	✓ 2年間で10件のサテライトオフィスが進出決定 (H30:4件, R1:6件)
	● 創業件数の増加	✓ 4年間で84件の創業 (H27:17件, H28:27件, H29:22件, H30:18件)
観光	● 総観光客数の増加	✓ 全域過疎市町への総観光客数が増加 (H23:12,955千人 ⇒ H29:15,840千人)
	● 体験型教育旅行の受入拡大	✓ 体験型教育旅行の受入人数が約6倍に増加 (H25:1,800人 ⇒ H30:10,518人)

農林水産業

(1) 生産性の高い持続可能な農林水産業の確立

事業展開・
創業支援

(2) 地域特性を生かした事業展開や創業の促進

観 光

(3) 地域資源を生かし、つなげる、魅力ある観光地づくり

現状と課題

- 農林水産業においては、規模拡大等を通じ担い手が生産額を増加させるなどの動きがみられます。しかしながら、人口減少、少子・高齢化が進むことから、生産基盤の維持が困難となるリスクが顕在化してくると考えられます。このため、担い手の経営力や生産性を向上させることで、収益性の高い持続可能な経営を確立し、こうした経営体が兼業農家などの多様な主体と連携しながら中山間地域の農林水産業を支えていく必要があります。
- また、豊かな自然と共生し、開放的でストレスフリーな中山間地域の環境は、ウィズ/アフターコロナ時代における地域の強みであり、過密化した大都市圏からの企業の分散需要を満たす有力な選択肢となります。こうしたことを踏まえ、新たなワークスタイルの受け皿となる企業のサテライトオフィスの誘致などに積極的に取り組んでいく必要があります。
- 地域における経済活動等の受け皿として欠くことのできない中小企業については、人材の不足や事業承継が経営上の大きな課題となっており、今後もその状況は一段と厳しさを増すことが見込まれます。このため、専門的な知見やスキルを有する外部人材の力を効果的に取り込むことによって、様々な課題を抱える中小企業の新たな成長につなげていくことが求められます。
- さらに、新型コロナによる社会経済活動への影響が長期化する中で、インターネットを通じた配送サービスなどの需要が増加しています。こうしたニーズを積極的に取り込み、新たなビジネス展開や販売チャネルの多様化を促進することによって、地域産業の活性化につなげていくことが求められます。
- また、観光については、新型コロナの拡大によって、安全・安心へのニーズが高まるなど、観光客の意識や価値観が変容していることから、ウィズ/アフターコロナ時代における「新しい生活様式」なども踏まえながら、中山間地域ならではの価値を提供することによって、さらなる観光需要の創出につなげていく必要があります。

農林水産業

(1) 生産性の高い持続可能な農林水産業の確立

ポイント

◆ 農業 ～地域の核となる力強い経営体の確保・育成

- 経営体個々の発展段階に応じて専門家派遣や生産工程管理等への支援を行うなど、企業経営体の育成に取り組みます。また、農産物の生産から流通、加工、消費に至るまでのデータを相互活用し、効率的な受発注・配送が可能となる仕組みづくりに取り組みます。
- 需要に応じた高収益作物の生産拡大を推進するとともに、ロボットやドローン、複合環境制御技術等の導入を支援することで、生産性の向上を図ります。
- 全国から意欲ある若い人材を呼び込むために、本県農業の魅力を積極的に発信するとともに、相談体制や実践型の研修制度等を充実し、新規就業者の確保・育成を強化します。また、組織運営のノウハウや資金力を有する企業の農業参入も促進します。
- 担い手が希望する農地と地権者の意向の一元管理に取り組み、効率的なマッチングを進め、担い手の規模拡大につなげます。また、スマート農業に対応できるようほ場の大区画化や水田の畑地化等の基盤整備を行い、生産性の高い優良農地への転換を進めます。

ポイント

◆ 畜産業 ～持続可能な広島和牛生産体制の構築

- 広島血統を代表する比婆牛の価値要素を更に高め、首都圏の著名シェフの高い評価を発信することにより、県内高級飲食店での取扱いの拡大を進め、ブランド化を図ります。
- 肥育・繁殖経営の規模拡大、受精卵産子の安定供給、リタイヤする経営の継承など、生産体制を構築するとともに、スマート農業やGAPなどのモデル波及に取り組むことで、生産性を高め、持続性の高い企業経営体の確保・育成を進めます。

ポイント

◆ 林業 ～森林資源経営サイクルの構築・森林資源利用フローの推進

- 森林の循環利用のサイクルを構築するため、航空レーザ測量データ解析結果を基に、林業経営適地を設定し、林業経営体への集約化を進めるとともに、森林経営を担う長期的視点を有した経営力の高い林業経営体の育成を進めます。また、森林のデジタル情報基盤の構築やIoT技術を活用したシカ被害抑制対策など、再造林を確実に実施するために必要な技術の確立を進めます。
- 「広島県県産木材利用促進条例」に基づき組織化した「ひろしま木づかい推進協議会」を中心として、住宅に加え、公共建築物や店舗等の木造化・木質化、木製家具等での高付加価値製品の開発や販路拡大に取り組みます。

ポイント

◆ 水産業 ～持続的かつ安定的な水産資源の生産供給体制の構築

- デジタル技術を活用したかき生産の効率化や安定化を図るとともに、養殖資材の適正処理など環境に配慮した養殖の推進により国際認証等の取得を進め、海外輸出にも対応可能な持続的なかきの生産体制の構築を図ります。
- 水産資源の管理や漁場環境の整備、最先端の漁獲技術の導入などにより、本県及び瀬戸内海全体での水産資源の回復と保全を図り、安定的な漁獲量を確保します。また、新鮮さや多彩な魚種を有する強みを生かして、瀬戸内の地魚のブランド力の向上に取り組みます。

▶ 持続的な農業生産活動の推進

- 農地・農業用施設を保全していく活動や、個々の集落に適した鳥獣被害防止対策など、担い手と兼業農家などが連携して、地域農業を維持する取組を支援します。また、中山間地域農業を活性化させるため、食育や農業体験などの地産地消の取組により、農業を軸とした交流人口の拡大を図ります。
- さらに、新型コロナ後は、「適切な分散」という中山間地域の価値を生かしたビジネスモデルに取り組む農林水産業者を支援するとともに、安全・安心な農林水産物に対する関心が更に高まることが予想されることから、安定的かつ持続的な供給を図ります。

(2) 地域特性を生かした事業展開や創業の促進

ポイント

◆ 新たな事業展開に向けたチャレンジ支援

- 時間や場所にとらわれない柔軟な働き方や仕事も暮らしも充実させるワークスタイルへの関心の高まりを受け、多様な人材のビジネス展開や働く場の拡大に向けて、里山ならではの環境やアクティビティを生かした戦略的な取組を推進していく必要があります。
- このため、地域の価値に共鳴するビジネス人材の新たなチャレンジに向けて、創業支援ポータルサイトによる情報発信や、創業フェスティバルの開催などを通じた潜在的創業希望者の拡大を図ります。また、ひろしま創業サポートセンターを中核機関とした、行政、経済団体、金融機関等で構成する「オール広島創業支援ネットワーク」による創業支援や、（公財）ひろしま産業振興機構等の既存制度の活用による新たな事業展開の促進を図ります。
- さらに、中山間地域への進出に意欲を持つ企業のサテライトオフィス誘致に取り組む市町を支援するとともに、企業の人材確保に向けて、即戦力となる県内外の専門人材（エンジニア等）とのマッチングの仕組みを構築します。

ポイント

◆ 中小企業の成長支援

- 中小企業の人材確保や戦略的な事業展開に向けて、プロフェッショナル人材とのマッチング支援を推進するとともに、多様なスキルや専門的な知見を生かして企業の課題解決に貢献しようとする首都圏等の副業・兼業人材と地域の事業者のマッチングの仕組みづくりに取り組む市町を支援し、意欲ある事業者の新たな成長を後押しします。
- また、専門家チームによる集中支援や技術・経営力評価書の発行を通じた経営支援、成長のための資金支援を実施します。加えて、サービス産業の生産性向上に向けたデータの分析や活用支援、イノベーションの創出に向けた組織づくりを支援します。

▶ 雇用機会の創出・就業促進

- ひろしましごと館におけるキャリアコンサルティングや職業適性診断，県立高等技術専門校における職業訓練等を通じて，若者の就業促進を図ります。また，働く意欲のある高齢者が，これまで培った能力や経験を生かし，生涯現役で活躍し続けられる就労支援に取り組みます。
- 中山間地域の立地企業に対し，地元雇用を奨励するとともに，助成制度を活用した産業団地や民間遊休地等への企業誘致を促進します。
- 中山間地域において，女性が，希望するワークスタイルや結婚・出産・子育てなどのライフステージに応じた自分らしい働き方を実現できるよう，女性の就業継続支援や男性の育児休業の取得促進に取り組みます。

▶ 地域資源の販路・消費拡大

- 新型コロナ危機の影響を踏まえ，販売のリスク分散や，地域特性を生かした質の高い農林水産物・加工品の販路拡大を図るため，インターネット等を活用した新たな販売チャネルの確保に取り組む意欲ある事業者を支援します。
- 地域の中小企業の経営指導を担う商工会等が，地域資源を活用した商品開発や新事業展開など事業者に通じた経営課題等を解決するための取組を支援します。
- 県内の伝統的工芸品の展示会への出展を支援するなど認知度の向上に取り組むとともに，「BUYひろしま」を通じて，県内製品の消費拡大に向けた取組を推進します。

(3) 地域資源を生かし、つなげる、魅力ある観光地づくり**ポイント****◆ 国内外の観光客に向けた観光資源の磨き上げと周遊促進**

- 新型コロナの影響により、密を避け、近場や自然の中での観光へ関心が高まっている中、四季折々のアクティビティだけではなく、里山や里海の自然と人々の暮らしが一体となった情景、神楽・花田植等の地域で受け継がれてきた伝統文化や伝統行事、古い歴史的景観を留める町並みや港町といった魅力を通じた、中山間地域ならではの価値を提供します。こうした考えのもと、中山間地域を有する市町やDMO[※]等と連携して、観光客の滞在や周遊に繋がる観光プロダクトの開発に取り組み、観光地としてのさらなる魅力の向上を図ります。
- 国内外の観光客が、快適かつ安全・安心に、中山間地域での周遊観光を楽しむことができるよう、円滑な移動等を可能にするストレスフリーな受入環境の整備に取り組みます。
- 瀬戸内サイクリングロード、やまなみ街道サイクリングロードの魅力向上を図るため、環境整備を推進します。

※ Destination Management/Marketing Organizationの略で、地域の多様な関係者を巻き込みつつ観光地づくりを行う舵取り役となる法人

▶ 観光資源をつなぐ道路ネットワークの形成

- 移動の円滑化による来訪者の満足度向上を図るため、高速ICや広島空港と観光地、観光地間をつなぐ道路における渋滞箇所や狭隘区間の改善を推進します。また、情報発信・地域連携拠点としての道の駅の機能向上を進めていきます。

活動事例

夢をカタチにできる**仕事**づくり



三次市 で活躍しています！

地域にたくさんの仕事をつくる 《小川 治孝さん》

農地や自然環境などの地域資源を活用した新たなビジネスモデルを構築し、地域内の起業や雇用を生み出す取組を行っています。その一つが、田んぼのオーナー制度によって農家と都市部の企業を結ぶ「スマイル10アール」です。また、現在は、耕作放棄地での新たな果樹生産と観光農園化に取り組んでいます。将来は、デジタル技術を活用した安定的な生産管理システムにもチャレンジしていく予定です。

【主な取組】

- ・ NPO法人地域活性化プロジェクトチーム GANBOの運営
- ・ 田んぼのオーナー制度「スマイル10アール」
- ・ 休耕田を活用した果樹（ブルーベリー）栽培



Point !

「スマイル10アール」は、契約農家の所得向上だけでなく、子育て中の主婦も「儲かる内職（包装）」で活躍できる仕組みをつくり、広島県の「ひろしま里山グッドアワード」では最優秀賞を受賞しました。

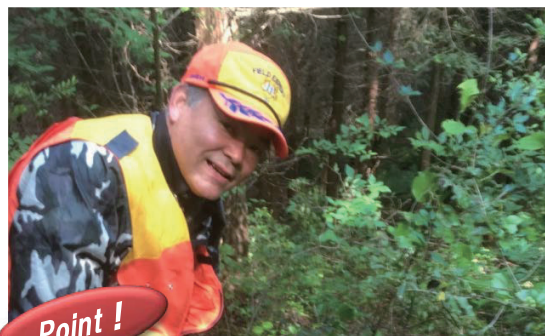
三次市 で活躍しています！

一石三鳥のジビエプロジェクトに挑戦！ 《片岡 誠さん》

三和町の国道375号線沿いにある「物産館みわ375」を運営しています。物産館では地域の特産品の販売や地元食材を使った料理を提供するレストランに加え、鹿肉・猪肉のジビエ料理や食肉、ペットフードの加工販売も行っています。ジビエペットフードの需要拡大に伴って、加工処理施設の自社整備と併せて狩猟免許を取得し、害獣の駆除から解体、加工、調理までを一貫して行っています。

【主な取組】

- ・ 物産館みわ375の運営
（特産品の販売、地元食材を使ったレストラン、杣つき餅の加工 など）
- ・ 獣肉処理施設での解体・精肉
- ・ 鹿や猪の狩猟



Point !

猪肉の食肉に適さない部分に豊富な栄養があることに着目し、ペットフードの加工販売を思いつきました。県内ペットショップでの販路や需要は拡大しており、農家さんからは「害獣が減った」、飼い主さんからは「よく食べる」という嬉しい声をもらっています。

安芸高田市 で活躍しています！

「川根柚子」で地域を次代へつなぐ 《熊高 順八さん》

川根柚子協同組合の営業部長として、柚子の加工品を開発・販売し、県内外での認知度の向上に取り組んでいます。活動のきっかけは、地域に賑わいを取り戻すため、地域の地形や気候を活かせる柚子に着目し、昭和57(1982)年に地域を挙げて植樹を始めたことでした。「川根柚子」のブランド化を図り、持続可能な地域を目指しています。また、収穫時期には収穫祭の開催など、地域内外のつながりづくりにも取り組んでいます。

【主な取組】

- ・ 川根柚子の栽培
- ・ 川根柚子の加工品開発・製造及び販売
- ・ 川根柚子の収穫祭(収穫体験や加工体験 など)



Point !

地域が存続し続けるためには、しっかりとした売上基盤が必要だと考えています。収益を生み出すことができれば、地域に新たな雇用が生まれます。次代へ地域のバトンをつないでいくために、息長く活動を続けていきたいと思っています。

尾道市 で活躍しています！

柿の里を復活させ、里山の経済再生にチャレンジ 《宗 康司さん》

かつて、日本有数の「柿の里」として栄えた故郷の御調町が限界集落になっていく姿を前に、「柿の里を復活させたい」という思いをもった仲間たちと「尾道柿園」を作りました。

柿園では、干し柿などの柿製品の製造と全国販売のほか、柿渋工房でのカフェ運営や体験会なども行っており、地域雇用と里山経済を活性化させるビジネスモデルを創るべく挑戦を続けています。

【主な取組】

- ・ 柿製品の開発・製造・加工・販売
- ・ 尾道柿渋工房での柿をテーマにしたワークショップの企画・運営、カフェの運営 など



Point !

「尾道柿渋工房」では、柿渋製造のほか、染色体験や仕込み体験など、柿をテーマにしたワークショップも開催しており、「柿文化」の魅力を世界に発信する拠点として、訪れる人たちに、御調に根づく歴史と伝統を伝えています。

竹原市 で活躍しています！

地域の隠れた“逸品”を全国へ届ける 《酒井 望さん》

竹原市の地域おこし協力隊として赴任し、平成30(2018)年に地域の方々と一緒に一般社団法人「産業振興支援センター おなし福寿畑」を設立しました。地域の逸品を全国に届ける「広島ギフトいちばん屋」の運営や地域の魅力発信、子どもの野外体験活動への支援など、様々な活動を通じて地域に寄り添いながら、活性化に取り組んでいます。

【主な取組】

- 一般社団法人産業振興支援センターおなし福寿畑での活動
 - 広島ギフトいちばん屋の運営
 - 地域伝承紙芝居作成
 - 子どもたちに向けたイベント・スタディツアー など



Point !

「広島ギフトいちばん屋」は、私が大変な時にいつも助けていただいた地域の事業者さんを応援したいと始めた、「地域産品」のネットショップです。県内各地の仲間とも連携し、自慢の逸品を全国にお届けしています。

東広島市 で活躍しています！

捨てられていた羊毛に新たな価値を 《山田 芳雅さん》

東広島マーケット「ひとむすびの場」を学生時代に始めたことをきっかけに、平成29(2017)年に合同会社ひとむすびを設立しました。地域内で「人とモノとお金と情報」を循環させることを目的に、様々な活動を行っています。

また、地域おこし協力隊として着任した豊栄では、「豊栄羊毛プロジェクト」を立ち上げ、羊毛製品の作成・販売や体験イベントを行っています。

【主な取組】

- 羊毛製品の作成・販売・手作り体験
- 合同会社ひとむすびの運営
 - 東広島マーケット「ひとむすびの場」の運営
 - 自然・農業体験スクールの運営
 - 「東広島まるひネット」による地域情報の発信



Point !

近所の農家さんから「いつも捨てている羊毛をどうにかできないか」と相談を受けたのをきっかけに「豊栄羊毛プロジェクト」がスタートしました。現在は、空き家となっていた古民家で「豊栄ウール工房」を運営しています。地域のおばあちゃんたちの憩いの場にもなっています。

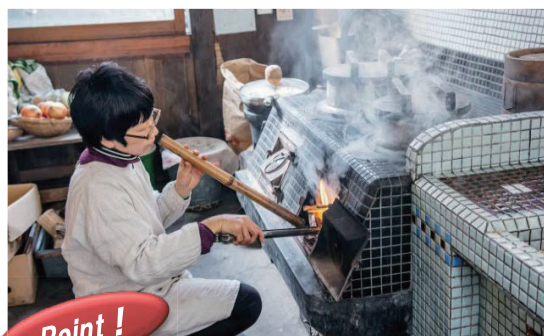
庄原市 で活躍しています！

田舎暮らしで広がる交流 《菱 千尋さん》

東京で何不自由ない生活を送る一方で、その便利さに違和感を抱き、母の生家がある庄原市に1ターンし、平成23(2011)年から、都市部の田舎を持たない方も田舎暮らしが体験できる「暮らし宿 お古」を始めました。ここでは、周囲の自然環境を活用し、「よもぎオイル作り」や「シイタケ植菌」など様々なワークショップも開催し、地域内外の人が交流できる場づくりを楽しんでいます。

【主な取組】

- ・「暮らし宿 お古」の運営
- ・自然環境を活用したワークショップ
- ・手作り商品のオンラインショップ



point !

「暮らし宿 お古」は、祖父母が暮らしていた古民家を改装しています。携帯電話も圏外で、かまどでご飯を作り、五右衛門風呂を焚くなど、日本古来の暮らし体験を提供し、今では全国各地や海外からお客様に來訪してもらっています。

安芸太田町 で活躍しています！

棚田を保全し、地域への共感者の交流の場を創出 《友松 裕希さん》

地域おこし協力隊として井仁地域の活性化に携わり、クラウドファンディングにより、日本棚田百選の一つである「井仁の棚田」に、初めてのカフェ「棚田カフェ イニ ミニ マニモ」をオープンしました。

また、地域自主活動組織の一員として、地域内外の人たちと共に、井仁の活性化や棚田の保全活動にも取り組んでいます。

【主な取組】

- ・「棚田カフェ イニ ミニ マニモ」の運営
- ・地域自主活動組織「いにびちゅ会」の事務局運営
- ・棚田保全維持活動



point !

井仁の棚田を見て楽しむだけでなく、くつろぎながら棚田米や地元産野菜を味わえる場所を作ろうとカフェをオープンしました。このカフェが、地域と外部をつなぐ交流の場になるよう、イベントや情報発信にも力を入れています。

世羅町 で活躍しています！

地域の価値に触れ、にぎわいを生む拠点づくり 《吉宗 五十鈴さん》

世羅町の魅力を内外に伝え、地域と人をつないでいくため、「世羅高原カメラ女子旅」や「ひろしま食べる通信」を通じた情報発信を行っています。

平成30(2018)年に、築170年の宿坊をリノベーションしたカフェ「雪月風花 福智院」をオープンし、地元食材を使ったメニューの提供や観光客の周遊拠点としての役割を担うことにより、地域への経済循環とにぎわいを生み出すことを目指しています。

【主な取組】

- ・ 世羅高原カメラ女子旅の企画・運営
- ・ 「ひろしま食べる通信」の編集
- ・ 宿坊カフェ「雪月風花 福智院」の運営



Point !

※吉宗 五十鈴さん(写真左)

「福智院」は、弘法大使が開いた今高野山の参道にあった宿坊でした。そんな地域の歴史や風情を感じながら、地域内外の人たちがお茶を飲んだり、勉強会やイベントに参加したりするなど、楽しく交流できる場所となっています。

竹原市 で活躍しています！

古民家カフェで里山体験を提供し、人を呼び込む 《福本 博之さん》

竹原市の里山、仁賀地域で古民家を再生したカフェ「スペースアンソロジー」を運営しています。ここは、床に煉瓦を敷き詰めたり、壁を塗って絵を描いたり、できるだけ自分たちの手で改装しました。

色々な方が、ふとした時に立ち寄れる、心とからだに優しい居場所づくりを目指して、交流を深めるための定期的なイベントなども開催しています。

【主な取組】

- ・ 古民家カフェ「スペースアンソロジー」の運営
 - （グランピングなどのアクティビティ体験の提供
 - マルシェや教室などのイベントの実施
 - 地元で作られた雑貨の販売
 - 地域の食材を使った料理の提供



Point !

仁賀で、地域内外の様々な人たちが出会い、つながり、新しいことが始まるきっかけを作るため、訪れた人が楽しめるアクティビティ拠点づくりにも取り組み、グランピングやサイクリングなどを通じた里山ライフ体験も提供しています。

安心を支える生活環境づくり

目指す姿

- ◆ 医療・介護の資源に限りがある中で、安心して質の高い医療を受けることができるよう、基幹的なへき地医療拠点病院が中心となった、他の中小規模の医療機関への医師派遣や広域的な人材育成などを通じた地域の医療機関のネットワークの構築、デジタル技術を活用した診療支援等により、医療提供体制の強化が進んでいます。
- ◆ また、介護を必要とする人も、住み慣れた身近な地域で安心して暮らすことができるよう、要介護者の状態に応じて、地域の医療・介護関係者が連携した最適な組み合わせで、在宅医療や介護サービスなどが提供されています。
- ◆ 地域や関係団体、企業、行政が連携して、日常生活に直結する様々なサービスについて、デジタル技術を活用して効率的に提供するための仕組みづくりが進み、スマートな里山づくりに向けたモデル的な取組が中山間地域全域に広がり始めています。
- ◆ とりわけ、交通アクセスについては、広域的な道路網と地域内の交通基盤が整備され、地域と都市を結ぶ広域幹線交通が維持されているとともに、新たな交通サービスの普及と地域の実情に応じた交通再編が進み、買物や通院等の日常生活の移動が確保されています。
- ◆ ネウボラを通じた子供や子育て家庭を支援する環境の構築に向けて、ほぼ全ての市町にネウボラの拠点が設置され、子育て家庭に関わる関係機関と市町のネウボラ拠点との間において、必要な情報が共有されています。
- ◆ 里山・里海の豊かな自然環境や水源かん養などの機能が、引き続き、維持・保全されています。また、災害を未然に防止し、局地的豪雨や地震、高潮等による災害時の被害を最小限にするための防災施設の整備が計画的に進むとともに、災害から命を守るための行動が実践されています。
- ◆ また、新型コロナ等による健康危機事例を踏まえ、平常時から健康危機の発生を未然に防止するための監視業務が適切に行われるとともに、緊急事態に備えた医療提供体制など、健康危機に適切に対応するための仕組みが構築されています。

これまでの主な取組成果

医療・介護

- 若手医師の確保
(中山間地域への配置)
- ✓ ふるさと卒卒業医師等の配置 (R2 : 30人)
- ✓ 自治医科大学卒業医師の配置(R2 : 21人)

高齢者が多い中山間地域においては、自然減を中心とした人口減少を今後も見込まざるを得ず、人口減少に伴う様々な制約等を踏まえた場合、地域によっては、一律の行政サービスを継続的に提供していくことが困難となることも見込まれるなど、サービス供給力の低下が懸念されています。

このため、以下の小柱に沿った取組を進めながら、並行して、日常生活に必要なサービス機能の最適化を視野に入れた、安心して暮らせる生活環境の在り方を検討します。



現状と課題

- 人口減少と高齢化が加速する中山間地域では、医療・介護、交通手段や子育てなどの様々なサービスを供給する上において、限られた人的資源で日常生活の安心をいかに確保していくかが、大きな課題となっています。
- 医療については、無医地区をはじめ、医師不足の問題が解消されておらず、通院が困難となる高齢者が増加していることから、地域の医療を担う医師の継続的な確保やデジタル技術を活用した診療支援などの取組により、居住地にかかわらず必要な医療サービスが受けられる環境整備を進めていく必要があります。また、在宅等で医療や介護等が必要な高齢者の増加が見込まれる中で、地域の実情に応じた福祉・介護人材の確保等を通じた「地域包括ケアシステム」の継続・強化が求められています。
- さらに、集落機能の低下に伴い、空き家や里山の財産管理等の新たな需要が発生するとともに、交通手段や買物環境の確保など生活支援に関わる需要の増大が見込まれています。こうした中で、急速に開発が進むデジタル技術は、担い手不足が深刻化する中山間地域の条件不利性を改善し、様々な課題を克服していく上で大きな可能性を秘めています。
このため、デジタル技術を積極的に活用し、地域における生活サービスの効率化・高度化を図ることによって、快適性や利便性の高い新しい暮らしのモデルにつなげていくことが重要です。
- また、中山間地域における日常生活に不可欠な生活交通や下水道などのライフラインの維持・継続に向けた新たな体制や仕組みづくりが求められます。
- 子供と子育て家庭に関する切れ目のない見守り・サポート体制である「ひろしま版ネウボラ」の展開に当たっては、中山間地域の実情に応じた取組手法の確立や、必要な人材の確保・育成など、市町の取組を積極的に支援していく必要があります。
- 環境保全については、手入れ不足の人工林や放置された里山林などによる森林の公益的機能の低下が懸念されています。また、地球温暖化の進行に伴う大雨災害の頻発や生態系の分布域の変化等に加え、不法投棄による里山の荒廃のおそれや海洋プラスチックごみによる里海への影響などが懸念されており、こうした影響を考慮した里山・里海の環境保全に努めていく必要があります。
- また、本県は、全国最多の土砂災害警戒区域を有しており、大規模災害への備えが喫緊の課題となっています。さらに、世界的な流行を背景として、国内においても全国で新型コロナウイルスが拡大しており、こうした健康危機に対するリスクも踏まえた、危機管理体制の強化に万全を期すことが求められています。

(1) 地域医療・介護提供体制の確保

ポイント

◆ 医師等医療従事者の確保・育成

- 全国トップレベルの高度・専門医療を提供できる中核的な機能を県内に整備することで、若手医師を中心に医師を確保するとともに、確保・育成した医師を医育機関との連携により中山間地域へ派遣する仕組みを構築します。
- ふるさと卒等地域医療を志す医学生に対して広島県医師育成奨学金を貸与するとともに、広島大学医学部地域医療システム学講座による卒前教育の充実や将来の専門医取得を踏まえたキャリアプランの作成などを通じて、地域医療に対する不安等を解消し、モチベーションを高めて、中山間地域等での勤務が行えるよう、卒後も含めた支援を行い、中山間地域の医療を担う医師を計画的に育成します。
- 自治医科大学卒業医師の後期臨床研修の充実や専門医取得に資する勤務先への派遣など、地域ニーズに応えつつキャリア形成にも配慮した派遣調整を行うことで、義務年限修了後においても、県内の中山間地域等の医療機関に継続して勤務するなど、県内への定着促進を図ります。
- 中山間地域における医師の確保と定着促進を図るため、広島県地域医療支援センターを中心に、就業希望者への相談・就業あっせんや県内外の医師のネットワークづくりなどの取組を市町、医師会、大学と連携しながら推進します。

ポイント

◆ 医療連携体制の維持・強化

- 基幹的なへき地医療拠点病院が地域内の他の中小規模の医療機関への医師派遣や広域的人材育成などを通じた地域の医療機関のネットワークを構築することで、中山間地域の医療提供体制を確保します。
- 県内全域で安心して適切な医療を受けられるよう、安全性が担保されたオンライン診療・服薬指導の普及に取り組みます。また、デジタル技術を活用した診療支援の取組を支援し、地理的障壁の解消や高度医療へアクセスできる環境を促進します。
- 無医地区等の住民の受療機会を充実させるため、「広島県北部地域移動診療車」の運営を支援するとともに、離島における住民への医療提供を維持するため、「瀬戸内海巡回診療船・済生丸」の運営を支援します。
- 感染症発生時において、必要な医療サービスが提供できるよう、感染症指定医療機関・協力医療機関を核とした医療提供体制を整備します。

ポイント

◆ 地域包括ケア体制の確立

- 地域の特性・実情に応じて、地域包括ケアシステムの質の向上を図るため、在宅医療・介護連携の推進、自立支援型ケアマネジメントの普及、生活支援体制の整備等について、市町支援に取り組みます。
- 介護人材の確保・定着・育成に向け、行政・法人等関係機関が連携して、合同求人説明会や地域循環型の就職面談会を開催します。また、福祉・介護が選ばれる業界となるよう、職場環境を改善した優良法人の認証制度など魅力ある職場づくりや小中高大学への出前授業などの若者を中心とした県民への理解促進を図ります。
- 介護記録のデジタル化やロボットの導入によって、介護保険サービスの質を向上させるとともに、現場の業務改善や介護従事者の負担軽減に取り組みます。

(2) 地域特性に応じた居住環境の整備

ポイント

◆ デジタル技術を活用した暮らしの向上

- 将来にわたって安心して暮らしを営むことができる環境を維持していくため、日常生活に直結する様々な分野において、デジタル技術を活用した新たな生活サービスを導入しようとする市町を支援し、新しい時代の暮らし全般にわたる全体最適を目指した「スマート里山・里海」の実現につなげていきます。
- また、そのための共通基盤となるデジタルインフラについては、光ファイバー網をはじめとする超高速ブロードバンド基盤等が、中山間地域全域で確実に整備・維持管理されるよう取組を進めます。

ポイント

◆ 持続可能な生活交通体系の構築

- 中山間地域における生活交通路線は、日常生活に不可欠なものであることから、国や市町と連携して、地域を支える幹線的なバス路線の維持・確保を図るとともに、地域の実情に応じて必要とされる生活交通の在り方を検討します。また、デジタル技術を活用したMaaSなど、新たな交通サービスの導入に向けた取組や、住民自らが主体となって地域の移動を支えていくための取組への支援を通じて、より持続可能性の高い生活交通への再編を促します。
- 地域の生活や経済活動を支えている鉄道ネットワークを地域資源として活用し、地域交流の拡大や、地域の魅力を向上させる取組を支援します。
- 離島住民にとって必要不可欠な本土への唯一航路や島しょ地域の暮らしや経済活動を支える生活航路について、国や市町と連携して、将来にわたって安定的な維持・確保を図ります。また、港湾施設について必要な改修を行います。

ポイント

◆ 社会環境の変化に対応したライフラインの維持

- 将来にわたって安心・安全な水を安定的に供給するため、小規模集落における継続的な水供給に向けた市町への情報提供を行います。また、「広島県水道広域連携推進方針」に基づき水道事業の広域連携の取組を進めます。
- 公共下水道、農業・漁業集落排水、浄化槽などの汚水処理施設については、「広島県汚水適正処理構想」に基づき計画的に整備を進めます。また、計画的かつ効率的な改築更新及び維持管理を行うことによって、地域の快適な生活環境の確保や水質の保全を図ります。
- 汚水処理施設の持続可能な運営に向けて、「施設や維持管理の広域化・共同化」を進めるための計画を策定し、これに基づく広域化・共同化によって、汚水処理に係る経費等の効率化を図り、事業運営の健全化に努めます。

▶ 中心地と周辺地域等の連携を支える基盤整備

- 中山間地域に住む人が、安全で快適な生活を享受できるよう、引き続き、地域拠点と周辺地域等を結ぶ道路の整備やバス路線1車線区間の解消に向けた取組など、地域の実情に応じた効率的な道路整備を推進していきます。

▶ 交番・駐在所による地域の治安の確保

- 地域住民の身近な不安を解消する機能を引き続き果たすため、交番・駐在所勤務員による巡回連絡、警ら等の警察活動を行うとともに、人口の状況や治安情勢の変化に応じて、交番・駐在所の計画的な整備を行い、住民が安全に安心して住み続けることができる地域づくりを推進します。

▶ 老朽空き家対策の推進

- 適正な管理が行われていないことにより、周辺に悪影響を及ぼすことが懸念される空き家については、市町や関係団体と連携し、所有者に対して自らの解体や適正管理を促すとともに特定空家等（老朽空き家）の解消に向けた取組を推進します。

(3) 子育て環境の充実

ポイント

◆ 妊娠期からの切れ目のない見守り・支援の充実

- 母子保健と子育て支援が一体となった見守り・サポート体制である「ひろしま版ネウボラ」を構築するとともに、子育て家庭に関わる全ての医療機関、保育所・幼稚園、地域子育て支援拠点と連携し、子供たちを多角的・継続的に見守り・支援する仕組みを構築します。
- また、その展開に当たっては、中山間地域の実情に応じた取組手法を確立するなど、地域に寄り添った支援の在り方を検討します。
- 新型コロナ危機後の変化等に対応するため、子育て中の親や妊産婦が、対面だけでなく、オンラインやSNS等でも気軽に相談・交流できる環境の整備に取り組みます。

▶ 子供の居場所の充実

- 中山間地域においては、人口の減少に伴い、保育所等を利用する乳幼児も減少していることから、保育所等の広域化や、国の「子ども・子育て支援新制度」による地域型保育事業（事業所内保育施設・小規模保育施設等）の設置など、地域の実情に合わせた保育サービスの提供に取り組みます。また、地域における保育士の確保と処遇改善、資質の向上に向けた取組も進めていきます。
- 乳児から幼少期までの子供の心と体のバランスある成長を促すため、中山間地域の豊かな自然環境を生かして、自然体験活動を中心とした子育て・保育、乳幼児期教育を推進します。
- また、保護者が就労等により昼間家庭にいない小学生については、生活・遊びの場である放課後児童クラブや、地域住民などの参画を得て学習や交流等を行う場である放課後子供教室の提供に取り組みます。
- 子供が安心して過ごせる生活の場や体験・交流活動の機会を切れ目なく確保するため、市町の取組を支援していきます。

▶ みんなで子育てを応援

- 地域の子育て支援者・団体が、ネウボラなどの支援機関と連携できる仕組みを構築し、子育て家庭が必要とする支援につながるよう取り組みます。
- また、新型コロナや災害等による外出自粛時にも、子育て家庭や地域の子育て支援者などが、オンラインで交流、相談できる環境の整備に取り組みます。
- 企業や団体等による「子育て応援 イクちゃんサービス」の更なる普及や地域における子育て支援の活動を促進し、地域社会全体で子育てを応援する機運を醸成します。
- 子育てに関する必要かつ正確な情報が、子育て家庭のニーズに沿った形で欲しいときにワンストップで得られるよう、利用しやすい環境をつくり、情報を発信していきます。

環境保全

(4) 里山・里海の環境保全

ポイント

◆ 森林の公益的機能の維持・発揮

- 森林の公益的機能の維持・発揮に向けて、県民生活に影響が大きい手入れ不足の人工林を集中的に整備するとともに、所有者の施業意思のない森林や所有者が不明な森林の公的管理に努めます。
- また、地域住民等が里山林を活用しながら継続的に管理する取組を支援するとともに、その取組を県内全域へ展開していきます。

▶ 地域資源を活用した再生可能エネルギーの利用促進

- 本県の豊富な森林資源を生かし、市町や住民団体などが一体となって、里山の手入れによって搬出された未利用材を地域で熱利用するなど、地球温暖化の防止に向けて木質バイオマス等の再生可能エネルギーの利用を促進します。

▶ 生物多様性の保全

- 野生生物保護に関する県民の理解を高めるため、野生生物の生息・生育状況調査を実施して情報共有するとともに、地域での生物多様性の保全につながる活動を支援します。また、鳥獣捕獲の担い手である狩猟者の高齢化等による不足を補うため、新たな狩猟者を確保・育成し、野生鳥獣の適切な管理に努めます。
- 「新しい生活様式」や県民のニーズを踏まえ、自然公園等施設が県民のよくばりライフの実現に貢献できるようその魅力を高めるとともに、安全・快適に利用できるよう、定期的点検や計画的な維持修繕等を進めていきます。

▶ 廃棄物の適正処理と海洋プラスチックごみの流出防止

- 一般廃棄物処理施設については、計画的な整備，適正・効率的な維持管理に係る市町への技術的支援を行います。また，市町が実施する不法投棄防止対策への支援により，不法投棄の未然防止を図るとともに，陸域・海上・上空からのパトロールなどにより，不法投棄等の不適正処理の早期発見を図り，原因者の究明や改善指導を徹底します。
- 海洋プラスチックごみの流出防止に向けて，使い捨てプラスチックの使用量削減に取り組むため，紙や海洋生分解性素材等の代替材への転換を進めていきます。また，県民，企業等に対し，海ごみに関する情報の発信・共有を進めていくとともに，活動団体と連携し，漂着ごみ等の清掃・回収を推進します。

(5) 危機対処能力の向上

ポイント

◆ 災害対処能力の向上

- 防災施設の着実な整備や老朽化が進行する既存インフラの適正な維持管理など、ハード対策等による事前防災をA I / I o Tなどのデジタル技術等を最大限に活用しながら、効率的かつ効果的に進めます。また、緊急輸送道路等の耐震補強や法面对策を実施することにより、災害に強い道路ネットワークを構築していきます。
- 適切な避難行動につながるよう、防災教育を通じて災害や避難に関する知識が世代を超えて承継できる仕組みづくりに取り組みます。また、デジタル技術やビッグデータ等を活用し、個々のニーズや地域特性に応じた最適な情報をリアルタイム・プッシュ型で発信するなど、きめ細やかな災害リスク情報の提供に取り組んでいきます。
- 地域の防災力を向上させるため、自主防災アドバイザーや防災リーダーの育成などに積極的に取り組むとともに、県内全ての自主防災組織において呼びかけ体制の構築に取り組めます。
- 災害の前兆の早期察知による被害の未然防止と、救急救命活動の配置の最適化による発災時の被害の最小限化に向けて、デジタル技術等を活用しながら、関係者間での迅速な情報共有を図ります。さらに、避難所等での感染リスクを恐れ、県民が避難行動を躊躇することがないように、避難所での生活環境の改善、複数の避難先の確保などに取り組めます。

ポイント

◆ 健康危機対応能力の強化

- 感染症発生時においても必要な医療サービスが提供できるよう、二次保健医療圏域ごとに関係機関が連携して迅速かつ的確な対応を図るための研修会を開催し、感染症指定医療機関及び協力医療機関を核にした医療提供体制の充実・強化を図ります。
- また、感染が拡大する最中にあっても、必要な医療・介護・福祉機能を維持・確保していくため、県や市町、関係団体をはじめ、県内外の関係機関が緊密に連携して医療機能等の役割分担を行い、県内全域で患者の受入れを調整します。

▶ インフラ老朽化対策の推進

- 中山間地域においても、橋梁等の社会資本の老朽化が進行していることから、新技術の活用促進によるライフサイクルコストの縮減や維持管理の一層の効率化を進めることにより、適切な維持管理を図ります。
- また、集中豪雨などによる甚大な被害の頻発化や、人口減少等の加速による技術者の不足が懸念されるため、デジタル技術を最大限に活用し、道路、橋梁などの公共土木施設等の整備・維持管理を国・県・市町の管理者の枠を超えた連携により効率的かつ効果的に進めることや、官民の連携による最適なインフラマネジメントに取り組めます。

活動

安心を支える生活環境づくり

事例

